

令和3年12月八峰町議会定例会会議録（第3日）

---

令和3年12月17日（金曜日）

---

議事日程第3号

令和3年12月17日（金曜日）午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 日程の追加について

第3 一般質問

第4 陳情第5号 精神保健福祉の改善について国に意見書提出を求める陳情について

第5 陳情第7号 介護をする人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度への転換を求める国への意見書提出の陳情について

第6 発議第14号 安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康を守るための意見書について

第7 発議第15号 安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康をまもること求める意見書について

追加日程第1 発議第16号 精神保健福祉の改善に関する意見書について

追加日程第2 発議第17号 介護をする人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度への転換を求める意見書について

第8 議会運営委員会の閉会中の所掌事務の調査について

第9 常任委員会の閉会中の所管事務の調査について

---

出席議員（12人）

1番 水木 壽保	2番 山本 優人	3番 奈良 聡子
4番 腰山 良悦	5番 須藤 正人	6番 芹田 正嗣
7番 見上 政子	8番 菊地 薫	9番 笠原 吉範
10番 芦崎 達美	11番 皆川 鉄也	12番 門脇 直樹

---

欠席議員（0人）

---

説明のため出席した者

町長	森田 新一郎	副町長	日沼 一之
教育長	川尻 茂樹	総務課長	和平 勇人
税務会計課長	成田 拓也	企画財政課長	高杉 泰治
福祉保健課長	石上 義久	教育次長	山本 節雄
産業振興課長	山本 望	農林振興課長	浅田 善孝
建設課長	石嶋 勝比古	農業委員会事務局長	工藤 善美
生涯学習課長	今井 利宏	学校給食センター所長	田村 高夫
防災まちづくり室長	内山 直光	総務課副課長兼 新型コロナウイルス 総合対策室長	菊地 俊平
福祉保健副課長兼 新型コロナウイルスワクチン 接種対策室長	若狭 正和	農林振興課副課長	堀内 和人

---

議会事務局職員出席者

議会事務局長 佐々木 高 議会事務局庶務係長 須藤 佳奈子

---

午前10時00分 開 議

○議長（門脇直樹君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第124条の規定により、3番奈良聡子さん、4番腰山良悦君、5番須藤正人君の3名を指名します。

日程第2、日程の追加についてを議題とします

総務民生常任委員会に付託中の陳情第5号及び陳情第7号の審査結果について報告を求められております。そのため、日程の追加について議会運営委員会に諮問し意見を求めておりますので、その結果を議会運営委員会委員長より報告願います。芹田議会運営委員会委員長。

○議会運営委員会委員長（芹田正嗣君） おはようございます。議会運営委員会委員長の芹田でございます。

ご報告申し上げます。

本定例会において総務民生常任委員会に付託となっております陳情第5号及び第7号について、水木委員長より審査の結果について報告したいとの申し出があったことから、議長同席のもと、議会運営委員会を開催し、本日の日程に追加することといたしましたのでご報告いたします。

なお、陳情について、採択となった場合は意見書提出の発議を日程に追加することになりますので、併せてご報告いたします。

○議長（門脇直樹君） 日程第3、一般質問を行います。

順番に発言を許します。1番水木壽保君。

○1番（水木壽保君） おはようございます。傍聴人の皆さん、どうも今日はありがとうございます。

1番、水木壽保。通告により一般質問を行います。

最近、畑に出かけて家が分からなくなり、2回ほど家族が搜索し、その後無事に保護されたということがあった。町でも地域包括支援センターが2カ月に1回、集落で「認知症カフェ」をお茶を飲みながら情報交換の場として行っているが、我が町は65歳以上の高齢者が49.6%、高齢化率が高くなっている。人口の半数が65歳は、3人に1人は認知症と言われている。秋田県でも行方不明の認知症と疑いのある人は増えている。我が町でも高齢者が二、三年前に散歩に出かけて行方不明になり搜索を行ったが、亡くなって発見された。これら、冬に向かい寒くなるので、今後、コロナウイルスなどの影響により外出が減り、周りの人と共同作業など例年のようにできずコミュニケーション不足であることから、認知症の人も多くいると思われる。ストレスがたまり、認知症が進むのではないかと心配である。今後の認知症対策をお伺いいたします。

○議長（門脇直樹君） ただいまの1番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 傍聴の皆様には、朝早くから、また足下の悪い中、多数傍聴していただきまして誠にありがとうございました。

それでは、水木議員のご質問にお答えいたします。

秋田県の高齢化率は、7月1日現在で38.5%となっており、本町においては、それを大きく上回る49.6%となっています。また、「一人暮らし世帯の割合」も、26.2%となっております。

高齢化率や「一人暮らし世帯の割合」は、今後も増加することが見込まれ、高齢者の

社会的孤立の問題や認知症にかかってしまう方々の増加など、地域における福祉需要はますます増大していくものと認識しています。

特に認知症については、厚生労働省によると、令和2年の65歳以上人口の認知症発生率は17.2%となっており、この発生率を用いて試算すると、本町では540人くらいが認知症にかかっているのではないかと推測されます。

認知症の予防については、様々な研究において、食生活、適度な運動、便秘予防などが効果的とされており、八峰町においても様々な取り組みを進めています。

「八森峰浜ふくし会」において、高齢者用トレーニングマシンを使って運動機能向上を図るため実施している週1回の「通所型サービスA事業」や、週2回の「通所型サービスC事業」をはじめ、認知症の初期症状がある方を医療に結びつけるため、「認知症初期集中チーム」を設置し、メンバーである医師からのアドバイスを受け支援する事業や、地域において認知症への理解を促進する認知症地域支援推進員による「認知症カフェ」の実施、平成26年度から実施している「認知症サポーター養成講座」などがあります。

特に「認知症サポーター養成講座」においては、今年度、自治会や老人クラブ、民生児童委員、中学生など計98名が受講し、町内における認知症サポーター数は、現在400名強となっております。

また、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった、認知症の家族を在宅介護している方を対象にした「認知症あんしん生活実践塾」を、年明け以降、計6回にわたり開催することとしております。

さらに、今年度は、認知症高齢者や知的障がい者など判断能力が十分でない方々の権利を守り、法的に支援する「成年後見制度」の利用促進を図る中核機関となる『八峰町成年後見支援センター』の立ち上げを予定しているほか、社会福祉協議会に『八峰町権利擁護センター』を設置するなど、地域における権利擁護支援体制を強化することとしております。

いずれにいたしましても、認知症の問題については、ともすれば他人事になりがちですが、地域住民や地域の多様な主体に参画していただきながら、「我が事・丸ごと」の精神で取り組んでいくことが大切であると考えております。

○議長（門脇直樹君） 1番議員、再質問はありますか。1番水木壽保君。

○1番（水木壽保君） 町でも認知カフェをやっておりますけども、その参加者を見れば老人クラブが主に参加したりしています。それからあとサポーターも来て、人数、民生

委員などが来ていますけども、男性の参加者が少ないということで、最近、県内での認知の行方不明者は男性が多く、女性が18名に対して男性が37名と多くなっており、その辺がちょっと気になるわけですけども、今までかつて認知症というか行方不明も探した、10年前に探したんですけども、それも男性で、それは3日間探しましたけども、早くに警察に届けてありましたので、もうちょっと遅ければ亡くなったという、青森まで行っていたという話がありました。ですから、今これから寒くなるので、そういうこう地域で守っていくというか、そういう仕組みが必要と考えておりますけども、どうでしょうか。

○議長（門脇直樹君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 今、水木議員言われた課題・問題、全くそのとおりであります。

老人クラブの活動にしても、社協の時代にも強く感じたんですけども、圧倒的に女性の方々が元気に活動されてるんです。介護予防教室にしても、そういう部分についても圧倒的に女性が多く参加してくれます。その部分を、男性でも認知症には十分かかり得るし、誰もかかるんです、かかるかもしれないんですけど、その部分については、社協を通じながら、あるいはまた町の広報等で、やっぱり男性も含めていろんな地域活動に参加したりとか、そういう認知症カフェも含めたそういう部分に取り組んでいただけるようなPRを強化していかなきゃいけないというふうに思っています。

議員おっしゃるとおりに本当にどうすれば来てほしい男性の方々が多く来てくれるのか、ここの部分をどうやって実現するのかという部分については力を入れてまいります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。1番水木壽保君。

○1番（水木壽保君） 今ちょこっと、家族というかそういう認知症にかかっている人がいるんですけども、それで車を運転して歩くんですよ、男性が。それでこう、決まったところをいつも地元でこう見てるんですけども、たまに変わったところに行くと奥さんというかが時間通り来ないと探し回るとい、それで奥さんが大変苦労しているということをちょっと聞きました。大変ですよって、もう運転しなければかなりいいんですけども、これから冬になるので運転はしないんですけども、今度また運動として周囲を回って歩く散歩というか、歩きます。それなのでこう、それも心配でありますので、地域がサポートしてあげられるんですけども、前回のやつは地区外なので、だからそういうのをサポートできる体制を、地域外でもむしろこういう人いるよとか、個人情報とかありますので、それは無理かもしれませんが、そういう体制づくりが必要ではないかと思っ

ております。どうでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 認知症になっても住み慣れたところで安心して暮らせるようにしたい。これは私の基本的な考え方なんですけど、そのためには、車なければ生活できない現実もあるわけなんで、その部分については今、巡回バスの部分の試行運行を始めてますけれども、そういう部分ともタイアップしながら、できれば家族の方々とよく相談して、認知症にかかっている方の一番の特徴は、自分は認知症でないという部分言い張ることです。だからその部分を、その心の壁を取り払うことができるのはやっぱり家族以外ないので、そういう部分はよく話しながら、まあ私の近くのうちの方では、軽トラ運転して落ちてった、川の方さ落ちてった人もいて、家族がその人の運転の車のキーを取り上げたという例もあるんですけど、まあそういう形でやるかどうかについては家族も含めてですね、そういう方々が万が一事故とかに遭わない、いわゆる行方不明にならないとかそういう部分のやつを、部分を家族の方々と話し合うとともに、民生児童委員に相談したり、民生児童委員を通じて社協の方に相談したりとかそういう形の部分をこうやっていただけるような体制づくり、今もできてると思うんですけど、まあそういう形の部分をよりこう心配りしていかなきゃいけないなというふうな形で思います。全くそのとおりであります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。1番水木壽保君。

○1番（水木壽保君） 今、一人暮らしで暮らしている人がいるんですけども、親が施設に預っているんですけども、その人、迷惑かけられないということで一人でこう悩んでいました。結構30分ぐらい話してきたんですけども、娘も地区外さ行っているんで相談はできないし、相談はできるんですけども迷惑かけられないということで一人でこう頑張っていたわけなんですけども、まあそれでいろいろと30分から話してきたんですけども、まずそんなに頑張らなくてもという感じで言ってきたんですけど、まあ町の役場の方にもお願いして行ってもらおうようお願いしたんですけども、そういう人は何人ぐらいいるのか、町に一人暮らしでそういう困っている人がいるのか、私も回って歩いて聞いて歩けばいいんですけど分からないので、その辺ちょっと教えてもらえますか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 国の厚生労働省の年齢65歳以上の認知症発生率っていうやつがありまして、17.2%というふうな形になっていまして、それで計算しますと540人くらい

というふうな形になります。やっぱり本当に頭が下がる思いなんです、まあそういう方々、一人にして、一人でなれますとどうしても人間は悪い方向、悪い方向に物を考えてしまいます。だからそういう人が一人にならないような、一人になる時間をできるだけ少なくするような、誰かが、まあ老人クラブの部分では友愛訪問活動というような形で、その人のお話を聞いたりとかそういう部分もありますし、自治会長さんがそういう役目を担ったり、あるいは民生児童委員の方々がそういう役目を担ってるケースもあります。まあ私とすれば、何とか今在宅で頑張っている方、老人クラブの活動とか、それから、まあこれから全町展開していきたいと思っているんですけど、通所型Bサービスって住民主体の、月1回とか月2回のサロンとか、そういう場を作りながら、そういう場面に是非参加していただくような、あるいは介護予防教室とか町の健康教室とかそういう部分にも是非参加していただくような形で、一人でいる時間を少なくしていく、そういう取り組みが必要だというふうに思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。1番水木壽保君。

○1番（水木壽保君） 安心・安全で暮らせる、住民と共生できるような仕組みづくり、峰浜、八峰町がこう安全であるという、暮らしができる、一人でも大丈夫だというそういう仕組みづくりしてもらえばと思って質問は終わります。

これで1番議員の一般質問を終了します。